

学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

～県立高校「未来の学校」構築事業 実践校～

■ 松本深志高等学校

『自治の追求により骨太のリーダーを育成する高校』

校是としての“自治”を問い続け、その理想を様々な場面で追求・具現化することができる「骨太のリーダー」の育成に取り組んでいる。「骨太のリーダー」とは従前のイメージ（「統率者」、「先導者」）とは異なり、高い志や使命感、未解決の課題への挑戦心、学問的真理を追究する意欲等を身に付け、他者と協働して新たな価値や社会を創造することができる人物のことである。

指定5年間の3年目にあたる本年度は、探究活動等の主体的・創造的な活動を通じ、学びの意欲の向上や、自治の精神の内面化を図るとともに、学校全体の活力向上を目指している。信州大学教員、院生を招聘したゼミ形式による連続講義「信大連携ゼミ」や、本校教員が企画・運営するゼミ形式による連続講座「深志教養ゼミ」等、様々な取組を実践し、生徒は「学びに対するモチベーション」を高めつつ、大学での学びやキャリアに結び付く「知の探究」を体験している。

また、様々な大学の研究者と協働し、自治の校風が生徒の人生にどのような影響を与えるかについて多角的な研究・分析を進め、「自治」と「骨太のリーダー」の関係性を探る取組も行っている。

これらの取組を通して、今後生徒の意識がどのように変容するかを意識調査等から検証していくとともに、外部有識者による分析・検証結果も公表する予定である。



信大連携ゼミ



深志教養ゼミ

■ 木曽青峰高等学校

『高度な産業教育を推進する高校』

「高度な技能・技術」と「創造性・経営者感覚」を備えた地域の未来を担う産業人を育成するために、高校での新たな学びと、卒業後の学びをコンソーシアムによって結び付ける一貫した教育プログラムの構築を目指している。

木曽青峰高校は、地域の様々な方から協力を得やすい環境にある。現在1年専門科「教養」の授業では、地域コーディネーター3名が、授業内容から地域人材の提案、授業のアシスタントにまで関わっている。今年度の哲学対話では、長野県立大学の馬場智一教授のもと、初めて全科合同で「問い」を学び、理解を深めた。また地元で活躍する11名の産業人の方々と対話し、木曽の地域資源の魅力、素材選び、木曽で生活することへのきっかけや想いを、「問い」を通じ引き出すことに挑戦した。現在は興味・関心をもつモノやコト、デザインについて調べ、学年末に研究成果を報告する準備を進めている。過去2年間には、この授業を通して、自分から地域に飛び込み、地元の人たちとつながって夢の実現に向けた挑戦を始めている上級生も複数名いる。このプログラムで学んだことが、木曽の人々とつながり、地元で活躍する生徒が増えるきっかけとなることを期待している。

今後、「高校と地域の一貫した教育プログラム」の構築により、生徒が就職後に広い業種で研修し、木に関わる総合的な知識や考え方、技術を身に付けてスキルアップできるよう、自治体や企業、上級学校等からなるコンソーシアムの拡充と教育プログラムの検討を進めている。



哲学対話



産業人調べ学習